

令和元年度唐津市行政改革推進会議 会議概要

(令和2年3月26日開催)

1 会議での主な意見・提案等

- (1) 令和元年度行政評価について
- (2) 唐津市行政マネジメントアクションプランの令和元年度の実施状況について
- (3) 行政改革課の取り組みについて

主な意見

- ・事業の削減、縮小、廃止について、どこか政策的判断を行うべき部署が必要ではないか。事業の切り捨て作業をどこかが増まれ役となって進めていった方がいいのではないのか。
- ・課題のまま、切るべきところがあるにも関わらず、新規事業が増えているので予算が膨らんでいる。
- ・予算を減らすのも大事だが、削減できた予算で新たなことにチャレンジすることも大事なのではないか。
- ・行政のスリム化という観点からすると、指定管理者などを積極的に取り入れていくべきではないか。
- ・国民宿舎は売却などを進めるべきではないのか。売却を行い活性化している国民宿舎がある。
- ・入浴施設を含め行政が集客に関連した仕事を行うより、売却などを行い民間のノウハウを活用し、運営した方がいいのではないのか。
- ・売却を検討されているのであれば積極的に進めていいのではないのか。売却できるときに売却しなければ、手遅れになる可能性がある。
- ・政策的判断で取りやめた事業についても、財政に余裕が出た時点で、再び事業を行ってもよいのではないのか。事業が増えるばかりで減らせていない。
- ・市民センターについては、今後どのようにするのか早急に決定すべきではないのか。トップダウンでの判断も必要となるのではないのか。
- ・市民センターの建物を残すのではなく、規模を縮小し、どこかの施設の一角を借りるということも考えるべきではないのか。
- ・市の人口が13万5千から12万1千程度まで減少している。1つの町の人口程度が減少しているので心配である。
- ・唐津市の財政がひっ迫していることは市民の方にも理解していただいているので、アクションを起こす時期に来ていると感じている。
- ・誰か悪者にならないければ行政改革が進んでいかないのではないのか。
- ・反対をする人だけの声を聞いては行政改革が進まないのではないのか。
- ・唐津市の状況を、見える化や分かりやすく市民に説明を行い、市役所の行政改革の取り組みを理解してもらうよう取り組むべきではないか。
- ・市民の意見を吸い上げるだけでなく、現状をもっと報告して回るべきでは
- ・やらなくていいことの削減や優先すべき事業に対して力を注ぐべきではないか。

2 今後の対応

- ・会議の結果は市のホームページで公表するとともに、関係各課と共有し、今後の取り組みの参考とする。